

自己実現 2018

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

[A%・B%成績]

3年生の実力考査は、成績結果を「A%」・「B%」という数値で表示します。さらに、その成績にもとづき神戸高校独自の合否追跡調査を行い、資料を作成しています。

「A%」成績は次のように算出します。

文系 (国：200+英：200+数：200+社：200+理：100) / 9

理系 (国：200+英：200+数：200+社：100+理：200) / 9

◎第1回実力考査は、「倫理、政治経済」が未実施なので、それを除いたデータで算出しています。

◎第3回・第5回実力考査では、校内実力考査とマーク模試のデータを平均します。文系の理科と公民、理系の地歴はマーク模試の得点のみを利用します。

◎第4回実力考査では、記述模試を利用し、そのデータを成績資料として用います。

「B%」成績は、校内実力考査(記述模試)のデータのみ利用し、次のように算出します。

文系 (国：200+英：200+数：200) / 6

理系 (英：200+数：200+理：200) / 6

合否追跡調査に用いる総合成績は、第3回～5回の実力考査の各科目の平均を算出し、「A%」・「B%」成績の算出式に代入します。

「A%」成績が5教科の総合的な実力(センター試験の得点状況と密接な関連があります)を示すのに対し、「B%成績」は国公立大学の二次試験の実力を示す数値です。

[第1回実力考査教科・科目別講評]

<国語> 平均点 71.6/200

現代文 42.2/100 評論 10.3/40 漢字 4.2/10 小説 27.8/50

古典 29.1/100 古文 7.9/40 古文単語 4.5/10 漢文 16.7/50

今回の考査では、漢字と古文単語は春休み課題からの出題であったが、それ以外の問題はすべて実力問題であった。長文問題はすべて初見のものであったが、課題としていた問題集にどれだけ真剣に取り組んできたかということが大きく関わっているはずである。文法事項の徹底や語彙の強化、また設問に対する着眼点や解答を記述する際の留意点など、実力を養おう、鍛えようとする意識がまだまだ甘い。

今回、現代文・古文・漢文を問わず、記述問題において、指定字数の枠を埋めてはいても、全く見当違いの内容で得点に結びついていない答案が目立った。

1 設問をきちんと読むこと。何を問われているのかを確認すること。

2 傍線部だけを見て答えているとしか思えない答案が多すぎる。傍線部は一文まで延長して考えること。また解答の根拠・要素となる箇所は必ず本文中にあるという原則は、古文・漢文についても現代文と同じであることを今一度確認してほしい。別途配布した解説プリントの詳細をよく読み、今後活かすこと。

次回6月の実力考査からは、漢字と古文単語の独立した出題はなくなり、すべて実力問題となる。健闘を期待したい。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

[自己実現 2018]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

<数学>

結果は同じになっても、途中の過程が間違っていれば、点数にはなりません。当然、結果のみしか書いていないようでは論外です。問題の要求していることの解釈を誤ることなく、答案が書けるようにしてください。

配布している詳解、講評をもう一度よく見直してみてください。難しい問題もあったと思います。しかし、現在の実力で解けるはずだった問題、そして、絶対に解かなければならない問題もありました。

現在、授業についていくのがやっとなりで、実力考査で得点をとれないと悩んでいる人も多いと思います。でも、これからです。文系ではすでに教科書の内容は終わり、理系も1学期でほぼすべて終わる予定です。今の結果であきらめないでください、一朝一夕では実力は伸びません、地道に着実に演習を進めて、まずは解かなければならない問題を確実に正解できる基礎力をつけてさらなるステップアップをめざしましょう。それを続けたその先には自分の思い描く進路が待っているはずですよ。

<英語>

3年生になってから初めての実力考査で、春課題と実力問題を半分ずつぐらいの出題である。2年生の学年末考査から1ヶ月以上あったので、準備期間は十分であった。そのために、課題部分(長文)は6割以上取れているようで、しっかり課題を学習できている人も多かった。その反面、実力問題(長文)は2割~4割程度の出来で、初見の問題に取り組む力を養うことが必要である。長文以外の問題では、並べ替え問題が比較的よくできていて、7割程度の正答率であった。しかし、和訳問題が2割程度の正答率で、国公立二次試験には和訳問題が頻出するため、和訳問題に慣れておくことが大切である。

自分で苦手分野をしっかりと把握し、次回からは模試を含めて全て実力問題であるので、特に長文では、分からないところも自分なりに文脈から推測してみるという方法で白紙解答を作らないことが望まれる。

<筆記>

	学年全体	平均点	91.1点		
	No.1	平均(107点満点)	54.0点		
	No.2	平均(93点満点)	37.1点		
普通科	平均点	88.1点		総合理学科	平均点 115.5点
	No.1	平均	52.6点		No.1 平均 65.4点
	No.2	平均	35.5点		No.2 平均 50.2点

<リスニング>

平均点 **学年全体** 36.5点 **普通科** 35.9点 **総合理学科** 41.0点

<リスニング+筆記>

200点満点に換算

平均点 **学年全体** 102.0点 **普通科** 99.1点 **総合理学科** 125.3点

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現2018]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

〈理科〉 物理

大問1は、運動方程式を立てる・力学的エネルギーの保存・運動量の保存・衝突・円運動など、力学全般の内容を含んでおり、ものにしてもらいたい問題である。わかりにくいところがあれば、解決しておこう。大問2の有効数字の計算は、今一度原則を確認しておこう。物理基礎の教科書の資料編に詳しく載っている。大問4,5は基本事項をしっかり押さえておく必要がある。公式を覚えることだけでなく、授業を利用して本質をつかむ努力をしてほしい。

物理基礎

「物理学と社会」以外のほぼ全分野から出題した。いずれも標準レベルの問題であった。全体的に演習不足の感がある。基礎をもう一度確認しつつ十分な問題演習が必要である。各問の正答率は次の通りである。

力学1			力学2			熱		波		音		電気	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
78%	57	48	52	22	26	48	52	57	22	26	48	26	13

化学

全体的な印象としては、計算問題に対し白紙であきらめてしまうような生徒は減ってきているように思うが、「書いているのに全く点が取れていない」という答案が多いように思う。思考力を要する計算問題に対し取り組もうとしている点は評価できるが、少しでも悩む要素を入れると、思った以上にその部分で引っかかる生徒が多いように思う。問題演習において「なんとなく解けた」というレベルではなく「完全に理解した」というレベルを意識するようにしよう。今回の問題レベルだと国公立は50点以上、難関国公立は70点以上が目標の目安である。まずは今回の問題の見直しを徹底しよう。あとは「記述力」、「計算力」これを意識しながら日々の学習に取り組むようにしよう。

化学基礎

大問1の正誤問題では択一問題にもかかわらず正答率が低かった。化学基礎の基本的な内容をおさえきれていない人がまだまだ多いようです。また、大問7の塩に関する問では、問題の趣旨を理解していない人もいたようです。これからの授業でもう一度復習していきませんが、教科書を読み直して解けなかった分野の問題の見直しをするとともに、普段から暗記だけではなく、なぜそうなるのかといった思考力、考察力を養うことも意識していきましょう。

生物

平均点は33点で、4割を超える設定をしていたので少し残念です。第1問はセンター試験と入試問題を参考に作成したもので高い解答率を期待したのですが点数が伸びませんでした。基本的な知識を問う小問で点が取れてない生徒は夏までにしっかりと重要語句の復習をしておく必要があります。実験考察問題や記述もしっかりと自分の言葉で書けるようにしてください。現役で合格するためには理科の重要性が上がってきます。3年になってから生物の勉強時間は少なくとも数学の半分の時間が取れていますか？多くの理系の2次試験の配点は理科と数学の配点は同じもしくは理科のほうが多い。現役で第一志望に合格するために時間を有効に使ってください。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

[自己実現2018]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

生物基礎

平均点 23.7 点で授業は 1 年間ありませんでしたが、知識に頼る部分はさすがに得点が伸びませんが、生物学の考え方をベースにしたグラフの考察など考えて解く部分では得点できている問も多く、まず復習し、知識を充実させることを優先しましょう。1 学期は教科書を振り返り知識を整理します。2 学期はそれが活用できるよう問題演習をたくさんします。

<地歴> 世界史

平均 40.1 点 最高点：90 点 最低点：12 点

今回の考査では、2 年の学習範囲から二次試験を意識した論述問題 4 問とセンター試験を意識した正誤問題 48 問、一問一答式問題 17 問を出題した。上位 10 名はしっかり学習し理解が進んでいるが、基礎知識が不足し、2 文正誤問題や、年代整序問題で迷うものも多かった。近現代史は、入試でも頻出であるが、3 年生では学習しないので、復習も必要である。その際には、教科書を精読して歴史の流れを理解し、19 世紀や 20 世紀というくくりでの出来事も関連つけて理解して欲しい。世界史ややればやるだけ点数が上がります。これからの努力に期待します。

日本史

平均点 47 点。近・現代史を問うた。【1】のテーマ史はセンター試験の必出形式。【4】は考えながら答えを導かねばならぬ問題。いずれも、持っている知識をどう有機的に結びつけて答えを導き出すかが、高得点の鍵となる。おそらく、その力が付いてきたと実感できるのは 11 月くらい。それまでは、歴史用語や年代といった覚えざるを得ないものは仕方がないが、出来事の起承転結が説明できるようにしていこう。

自分が今出来ることを、今やっていくようにしよう。”また今度やったらいいや”は、結局後悔の元。限られた時間を有効に使うように。

地理

平均点 46 点。できれば 50 点ほしいところ。40 点台から 50 点台の違いはマークシートの場合とても大きく、まだまだ力不足。基本的な事項が理解できていない。白地図を見て、国名を見て、地理的な事象がイメージできるかどうか。そのためにはその国の基本的なデータを大まかでよいので覚えてほしい。それを有機的に繋げられるようになってほしい。

[後記]

3 年生になって初めての校内実力考査の結果はどうか？人によっては 2 年生のときの成績から、かなり変動がありました。日々の取り組みの違いが少しずつ積み重なって大きく成績の差に現れたのだと思います。次の校内実力は 6 月 14(水)、15(木)です。その前の 6 月 9(金)、10(土)に校外模試(マーク)があります。今回の成績に満足がいけない人は、自分で 1 か月の計画をたてて、次のテストまでに着実に学習をすすめてください。

新入生が部活動に加入し、部活動にも活気が増えています。後輩たちに技術面だけでなく勉強の面でも尊敬される先輩を目指しましょう。疲れていても予習、復習を欠かさず、毎時間の授業に集中し、居眠りなど決してしない先輩こそ尊敬される先輩です。新入生からすべての意味で憧れの先輩となれるよう、気を引き締めて日々の学校生活を送りましょう。そしてかつこよく**第一志望に現役合格**を果たしましょう。

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現 2018]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。